出題意図

【2025年度入試　日本史　A日程1日目】

【1】

古代史分野、平安時代からの出題、文化史・外交史を中心にした史料問題である。代表的な諸史料の読解と、それらに関する設問への解答から、平安時代の文化・思想・外交・政治・対外関係に関する基礎知識の修得度と、それぞれのことがらについての時代性の理解度を確認する問題である。

【2】

中・近世からの出題である。院政期から近世末期までの日本列島における災害と社会・政治史について述べた文章をリード文とした。

問1はリード文の空欄を補充する記述式の問題で、歴史の基本的な事項の理解を確認することを意図した。問 2 は自然災害と文化財の関わりについての理解を問う選択問題である。問3～6は災害史からやや離れて、中近世の政治や対外関係についての基礎的な理解を確認することを意図した。具体的には、問 3 は院政についての選択問題、問 4 は仏教史と織田信長に関する記述問題、問 5 は近世北方史についての確認する選択問題、問 6 は日本史のうえでの知識を地理的知識と関連づけて理解していることを確認する記述問題である。

【3】

近現代史前半からの出題である。大日本帝国憲法の公布と日清・日露戦争そして第一次世界大戦へと続くなかで、富国強兵と条約改正との二大国家課題を達成していく日本の近代国家形成過程を概観する文章をリード文にした。

問 1 は文中の空欄を補充する記述式の設問、問2は文中の下線部についての一問一答形式の記述式問題である。高校教科書の基本事項を、歴史的文脈のなかで理解しているかを問う問題である。

【4】

近現代史後半からの出題である。1952（昭和 27）年4月のサンフランシスコ平和条約の発効前後から、55 年体制の成立を経て、1956 年 12 月の日本の国際連合加盟までの時期の政治・社会状況を概観する文章をリード文とした。

問1はリード文中の空欄を補充する記述式の設問、問2はリード文中の下線部についての一問一答形式の記述式問題である。時間軸のなかで繰り広げられる重要な歴史事象について、高校教科書の理解を確認する問題である。

出題意図

【2025 年度入試　日本史　A 日程 2 日目】

【1】

古代史分野、平安時代の政治変遷に関する問題である。律令政治の制度・官職・地方行政やそれらに関わるイベントに関する文章をリード文とした。

文章の読解と設問への解答から、古代後期の律令政治の変容と摂関政治の成立と展開に関する基礎知識の修得度、古代から中世にかけての社会の動きや時代性の理解について確認する問題である。

【2】

中世後期～近世からの出題である。高校教科書の多くに掲載されているものを中心に、それぞれの時代の社会の特徴に関わる史料、文化史に関わる史料、計 4 点をとりあげた史料問題である。

問 1 は「建武記」の記述を示して、建武の新政との時代の社会状況についての理解を確認することを意図した。問 2 は「風姿花伝」の記述を示して能楽について、問 3 は作例を示しての連歌について、いずれも室町時代の文化史について理解を確認する問題である。問 4 は、この時期に特徴的な国一揆について、地理的な知識と関連づけて理解していることを確認する記述問題である。

【3】

近現代史前半からの出題である。幕末の黒船艦隊の来航から始まる開港期の動乱のなかで、尊王攘夷派の動きや幕府側の対応について概観する文章をリード文とした。

問 1 は文中の空欄を補充する記述式の設問、問 2 は文中の下線部についての一問一答形式の記述式問題である。高校教科書の基本事項を、歴史的文脈のなかで理解しているかを問う問題である。

【4】

近現代史後半からの出題である。第二次世界大戦中から戦後にかけての時期の日本をとりまく国際関係のなかで、日本の占領とその後の占領政策の転換を概観する文章をリード文とした。

設問はすべてリード文中の空欄を補充する記述式である。高校教科書の基本事項（太字部分）を中心に、教科書叙述の歴史的文脈の確実な理解を問う問題である。

出題意図

【2025 年度入試　日本史　B 日程】

【1】

古代史からの出題、平安時代の思想・文化・社会に大きく影響した仏教を主題とした問題である。平安時代の仏教思想とそれに関わる文化に関する文章をリード文とした。

リード文の読解と設問への解答から、基礎知識が修得されているか、信仰の目的や当時の社会的背景と仏教文化の内容が理解されているか、を確認する問題である。

【2】

近世史からの出題である。都市史を軸としながら近世の政治・経済・社会について述べた文章をリード文とした。

問 1 はリード文中の空欄を補充する記述式で、高校教科書の基本事項についての理解を確認する問題である。問 2 は江戸時代の交通路の整備についての記述式問題、問 3 は都市大坂について選択問題で、それぞれ基本的な理解を問うことを意図した。問 4 は江戸時代の幕府と朝廷の関係についての基礎的理解を、問 5 は歴史と現存文化財を関連づけて理解できているかを、いずれも選択問題によって問うたものである。問 6 は近世から現在まで続く工芸や食文化の歴史の背景にある、対外関係史についての理解を問うことを意図した。

【3】

近現代史前半からの出題である。維新後の明治政府が、急進的な文明開化政策や近代的外交体制の確立をめざすなかで起きた革新と混乱の過程を概観する文章をリード文にした。

問 1 は、文中の空欄を補充する記述式の設問、問 2 は、文中の下線部についての一問一答形式の記述式問題である。高校教科書の基本事項を、歴史的文脈のなかで理解しているかを問う問題である。

【4】

近現代史後半からの出題である。国家総動員法の第一条から第四条までをとりあげた史料問題である。史料に続けて、その説明文を付した。

問 1 は説明文中の空欄を補充する記述式の問題だが、一つは教科書から得られる知識の確実な理解を求めるもの、それ以外は史料と説明文とを照らし合わせながら、史料中の語句を補充するもので、史料を読み解く作業そのものを求めている。問 2 は史料中の下線部についての記述式問題である。いずれも日本史の基本事項の理解を確認する問題である。